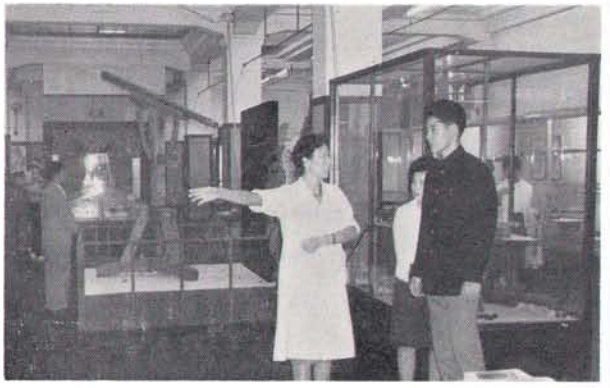
月報アルバム

「我が国の望遠鏡の歩み」展

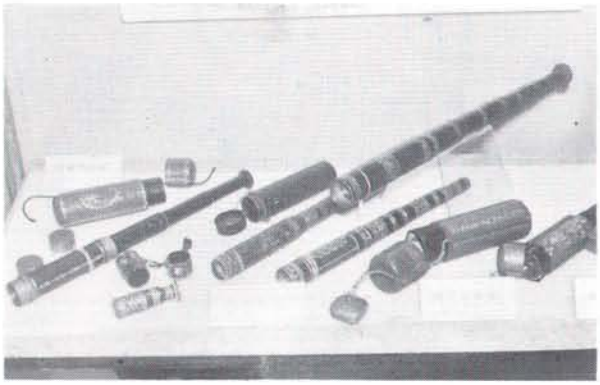
昨年8月 23 日から9月 23 日まで，東京上野の国立科学博物館で，「我が国の望遠鏡の歩み」展が開催され，日本に古くから伝わる望遠鏡から，現代日本光学工業の粋を尽くした望遠鏡，およびそれに関する文献・資料が多数陳列された．ここにその会場の風景を示す写真を載せてみよう．



1. 望遠鏡の歩み展の入り口．左方に葛飾北斎の浮世絵が見える．
2. 陳列場の一部．後方に石黒氏出品の架台付大望遠鏡が見える．（これは天体用望遠鏡で，一説には麻田剛立の設計かという．）

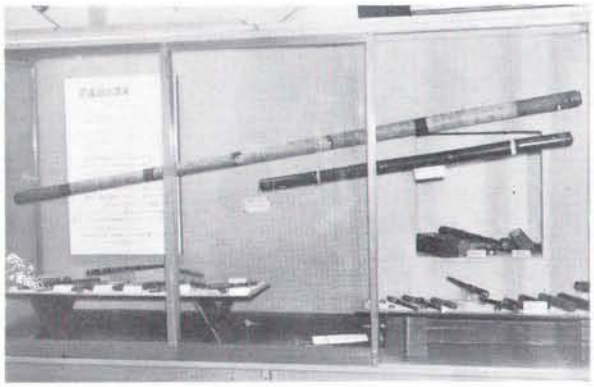
3. 羽間家にあるグレゴリー式反射望遠鏡．「明凹対照眼鏡」と名づけられており「明食測量用」とある．英国製で Urings, London の銘がある．口径3インチ，約 30 倍．

4. 羽間家にある屈折望遠鏡．文政 6 年（1832 年）オランダより幕府に献上したというもの．色消レンズが用いられている．



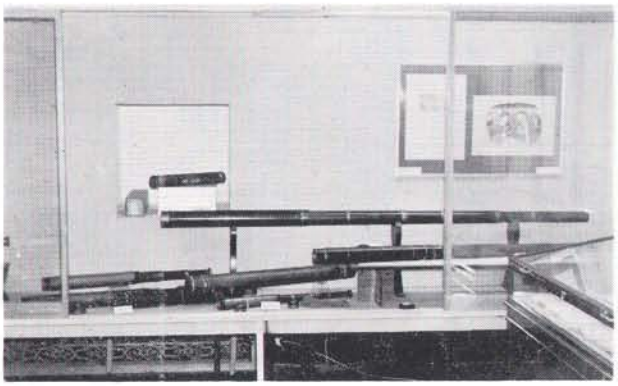
5. 小型の望遠鏡類．一閑張 4～5 段伸しのものが多く，根付式のケースに入っているものなどもある．極小型（左方手前）のはガリレオ式，渡辺紳一郎氏の出品．

6. 徳川義道（1600～1650）使用の遠望鏡．徳川美術館に保存されているもので舶来の初期のものと思われる．倍率 3 倍の地上望遠鏡である．



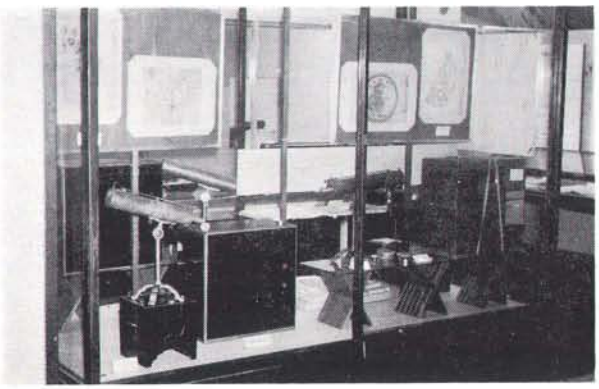
7. 井伊家史料保存会出品の長筒遠望鏡．全長約 2.7m，「泉州住岩橋作」の銘がある．そのすぐ下はやはり岩橋作と思われる竹筒望遠鏡．石黒敬七氏出品．

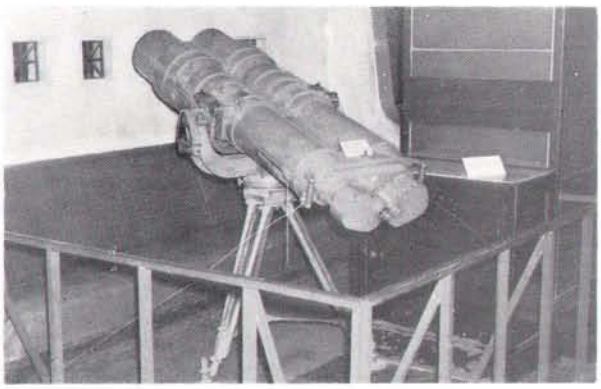
8. 森仁左衛門作の望遠鏡．将軍吉宗のために望遠鏡や観測器械をつくったという森氏の作で，木箱に「森仁左衛門細工」とある．神戸商船大学出品．



9. 最も長いのは伊能忠敬使用の望遠鏡．佐原市教育委員会出品．岩橋の銘がある．倍率 40 倍ほどの天体望遠鏡である．

10. 国友藤兵衛の反射望遠鏡（上田市立博物館のもの）と記録類．太陽黒点のスケッチが見える．



11. 国友藤兵衛の資料のケース．左端は河原栄一氏出品のもの．右は国友家のもの．上に月面スケッチが見える．

12. 国産最大の双眼鏡．（口径 25 cm，日本光学製）戦時中試作されソ満国境で用いられたもの．